

CT 検査を受けられる方へ（CT 検査における放射線被ばくについて）

① CT 検査と当院の取り組み

1. 放射線は身体を通り抜ける性質をもっています。CT 検査ではこの性質を利用して画像を作成しており、病気の発見や治療に必要不可欠です。
2. 医師が検査をすることで得られる有益性が、放射線を受けることによる危険性を上回ると判断する場合のみ検査を行っています。
3. 当院では学会の基準を守り、できる限り少ない放射線で安全に検査が実施できるよう努めています。その取り組みにより、日本診療放射線技師会より「医療被ばく低減施設」に認定されています。

② CT 検査で使用する放射線による影響

1. 放射線の量のことを「線量」といい、単位を mGy（ミリグレイ）で表します。
2. 放射線による影響として発がんや不妊などが報告されていますが、受けた線量によって影響は異なります。
3. 当院では CT 検査ごとに標準体型における組織・臓器が受ける被ばく線量を把握しており、すべての検査において 200mGy を下回っていることを確認しています。
4. 200mGy を下回る被ばくでは、胎児への影響のみ考慮し、その他の影響はないと予想されます（日本放射線公衆安全学会）。
5. 実施された CT 検査の被ばく線量は検査ごとに適切に管理、保存しています。

③ 代表的な CT 検査における被ばく線量

（2016 年現在）

検査内容	被ばく線量(mGy)		
	最大線量（部位）	生殖腺（女性）	生殖腺（男性）
脳 単純	73.8（水晶体）	0	0
腹部から骨盤部 単純	37.8（精巣）	29.2	37.8
肝・胆・膵・脾（造影）※3 相	66.5（腎臓）	3.4	0.1
脳（単純）※1 歳未満	63.7（水晶体）	0	0

※四肢の CT 検査について臓器線量の算出が出来ないため記載していません。

④ 妊娠中の被ばく

妊娠中に被ばくをしても 100mGy 未満の胎児線量であれば安全が確立されており、国際放射線防護委員会によって、線量が少なければ妊娠中絶の理由にはならないことが明記されています。

以上より、安心して CT 検査をお受けください。

令和 3 年 3 月
浜松医療センター